

## 日韓発掘交流に参加して

2015年10月5日から11月27日まで、日韓発掘交流事業により、韓国の国立慶州文化財研究所に滞在し、発掘調査に参加しました。発掘交流事業は今年で10年目の節目の年を迎えましたが、これまでも多くの先輩達が韓国での調査に参加し、また奈良文化財研究所でも受け入れをおこなってきました。

10月は5世紀の新羅の墓域であるチョクセム古墳群の分布調査に参加しました。本年度の調査地区は戦前に朝鮮古蹟研究会が古墳を発掘調査した地区で、その古墳の正確な位置や周辺の状況の確認が主な目的でした。11月には場所を移し、統一新羅時代の東宮跡と推定される新羅王京遺跡の発掘調査に参加しました。長期にわたって発掘調査を続けてきた地区で、本年度は主に断ち割り調査による下層の状況の確認をおこないました。

どちらも膨大な量の礫石を用いた遺構が良好に残る遺跡で大変感動的でしたが、それゆえ普段経験する発掘調査とは趣が異なり大いに悩まされました。韓国の研究者と片言の韓国語で意思疎通をはかりつつ調査を進め、たどたどしいながらも、調査の方針や遺構保護の考え方、今後の活用のあり方などについて、まさに遺跡を目の前にしながら話し合うことができ、多くのことを学ぶことができました。

コスモスの盛りから紅葉を経て、最後には初雪の中キムチを漬け込む時期までの滞在となりましたが、世界遺産慶州歴史地区の折々の姿を眺めつつ、文化財の調査研究のまさに第一線で活躍する同世代と深く交流できたことは、得がたい経験となりました。今後も、奈文研と慶州文化財研究所の絆と交流がますます深まることを期待します。

(都城発掘調査部 川畑 純)



発掘調査への参加風景